

# 会員の総意で合意形成して新たな土産物開発

馬籠観光協会

(岐阜県)

中山道木曾路馬籠宿の観光振興(土産物部会:土産物店主による構成)

## 1. 相談のきっかけ

団体客の減少から土産店の売上が減少し、会員店舗の会費収入でまかなう観光協会の運営も厳しくなってきた。新たな土産物を開発して土産店を活性化するとともに、観光協会による共同仕入れで会費増の一助とした旨、中津川市役所に相談があり、中津川商工会議所を経由して相談が回ってきたもの。

## 2. 課題整理・分析

馬籠宿は平成大合併の際に長野県から岐阜県に越県編入された歴史を持つが、長野県産の土産物ばかりを売っているなど「信州」の意識が抜け切れていない側面があった。また、馬籠宿の土産物店は世帯主の本業とは別に、御婦人が片手間に経営されている場合が多く趣味性が高く、経営改善の観点や顧客の視点からの合意形成は困難を極める状態であった。

## 3. 解決策の提案

過去の経緯のヒアリング、新たなアイデアの提案、意見の抽出ならびに調整、試作品の披露から合意の形成に至るまで、土産物開発会議を店舗の終了後の夜間に月1~2回程度開催した。土産物を開発する前段として、どのような想いで接客しているかなど、意識の確認を行いつつ、会員の意識レベルにマッチした会議となるよう、意見調整のファシリテーターに徹して進めた。



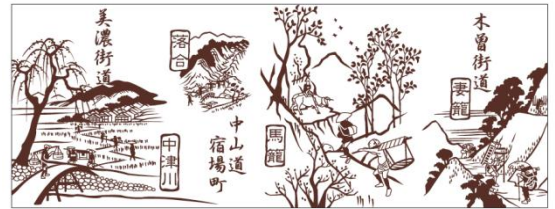
## 4. 成果

### (1) 土産物開発

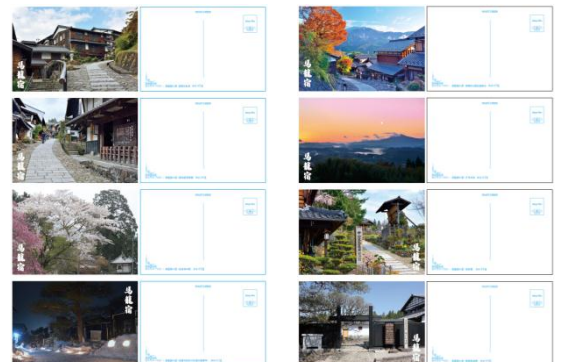
馬籠観光協会土産物部会会員の総意で、新たな土産物第一弾として「オリジナル・デザイン入り日本手ぬぐい」ならびに「新馬籠八景写真入り絵葉書」が完成し、今夏より順次販売がスタートした。また、その様子は読売新聞及び岐阜新聞でよろず支援拠点名入りで取り上げられた。さらに継続した土産物開発への支援要請が来ており進行中。

### (2) PR広報支援

新たな土産物の開発と合わせてメディアを活用したPR広報活動の支援を実施し、最も馬籠宿の魅力が伝わる情景の一つの「馬籠宿場まつり」のタイミングで[メ〜テレUP!](#) ([タ方のニュース番組](#))の特集枠で取り上げられ、秋の行楽シーズンの観光客増に貢献した。



オリジナル・デザイン入り日本手ぬぐい



新馬籠八景写真入り絵葉書